

札幌市円山動物園の強み／気候変動教育の場として伝えたいこと

1. 札幌市円山動物園の強み・特性

- ① 気候変動への関心が低い、環境教育が届きにくい層にもアプローチ可能
若手子育て世代、市内外の学校・学年単位の子どもたちなどに直接メッセージを発信できる。
- ② 生きた動物と出会い、触れ合う楽しみを提供できる
動物への好奇心・愛着をとおして遠い生息地の環境や未来への想像力を引き出すことができる。
- ③ 年間約100万人の来場者と絶大なネームバリュー
企業による支援・社会貢献や市の環境政策のショールームとしてのポテンシャルが高い。メディアや園外での発信力（影響力）が大きい。
- ④ 専門性を有するたくさんの職員の存在（知的・人的基盤）
飼育現場のリアルや生息地調査等に基づくインタープリテーションを提供できる。
- ⑤ 気候・エネルギー対策の取組・設備が豊富
次世代エネルギーパーク、園内の再エネ設備、堆肥化施設等、動物園の取組を生かしたプログラム・展示が可能であり、動物舎、売店、食堂等今後活用できる施設も多数ある。
- ⑥ 寄付や人材の受け入れ体制が整備されている
動物園応援基金、さっぽろ円山動物園サポートクラブなど寄付の受け皿が存在し、ボランティアによるガイド・行事等も行われている。

2. 気候変動教育の場としての動物園で／から伝えたいこと

- ① 気候変動による環境変化が世界各地で動物の生息を脅かし、対策が急がれていること
（関連）生息域の縮小（ホッキョクグマ、ユキヒョウ等）、害虫・害獣の生息拡大、環境変化にともなう人間活動の影響、山火事の激化…
- ② 気候変動の影響は遠い世界の話ではなく、すでに北海道でも現実化していること
（関連）猛暑、自然災害、外来種の定着、農業への影響、漁獲の変化…
- ③ 気候変動は私たちの生活や経済に起因しており、動物園にも私たちにもできること／やるべきことがたくさんあること
（関連）省エネ・再エネの効用、地産地消・エシカル消費、環境教育、eモビリティ、ESG投資、緩和策…
- ④ 気候変動対策（再エネ等）と動物たちの生息環境の保全は両立させなければならないこと
（関連）SDGsの世界観・課題間のつながり、地域共生型再エネ、ワイズユース、先住民の生活文化…